

令和4年度 第2回川崎市社会教育委員会多摩市民館専門部会摘録

- ・日 時 令和4年9月12日（金）午前10時～12時
- ・場 所 多摩市民館 第6会議室
- ・出席委員 小澤（章）委員、米山委員、齊藤委員、吉田委員（部会長）、三品委員、高梨委員（副部会長）、小園委員
- ・事務局 柏原館長、麻賀課長補佐、篠原係長、
- ・傍聴者 なし

1 開 会 （麻賀課長補佐）

2 部会長あいさつ（吉田部会長）

3 館長あいさつ（柏原館長）

4 令和4年度第1回会議録について（麻賀課長補佐）

※資料1 特に質疑なし。承認。

5 報告事項

（1）令和4年度施設の維持管理運営について

○麻賀課長補佐より資料2等に基づき説明

（齊藤委員）

女子トイレの壁に貼られているシールに要望が書かれている。対応した方がいいのではないかと。

（事務局：麻賀課長補佐）

今年度トイレの全面改修の中で対応していく。今日も工事音でご迷惑をかけている。

（2）令和4年度多摩市民館社会教育振興事業計画について

○篠原係長より資料3等に基づき説明

（齊藤委員）

多摩区地域教育会議が行う「教育を語るつどい」のチラシを配らせていただいた。地域の子育てに興味のある方を対象に井戸端会議方式でざっくばらんに話し合う形式で行う。

（小園委員）

「動画制作初めて講座」はどんな方々が参加されたのか。

（事務局：篠原係長）

40代から70代までの様々な方が参加されていた。趣味で蜂などの成長記録を撮りたいという方やユーチューブを意識されている方もいた。

6 議 題

(1) 今期のテーマについて

○篠原係長より資料4等に基づき説明

(吉田部会長)

5つの地区社協でも連携がとれているわけではなく、それぞれで活動している。多摩区は広いので地域ごと異なっている。

(齊藤委員)

子どもを地域で育てるのを大きな括りでやるのは難しく、それぞれの地域で行うことになる。新たに組織を立ち上げるのではなく、既存の町会や子供会を行政がうまく連携、活用する方法、やり方を見つけた方がいい。

(小園委員)

PTAの運営委員にテーマについて聞いたところ、図書館のおすすめ本の紹介や各団体の社会教育的学びを教えてほしいなどが出た。利用状況は月1回程度か、ほとんど使わないと頻度に差があった。そもそも「社会教育は何で必要なのか」という感じで、やりたくなる仕組み作りが必要と感じた。参加したいイベントでは「街がよくわかる、シビックプライドを醸成できるイベント」なら参加したいとの意見があった。シビックプライドが多摩区の社会教育を発展させていくマインドと考え、テーマとしては「シビックプライドを育める市民活動、地域資源の発見と情報発信」と考えた。講座が開かれても情報が届いていないと感じている。

(吉田部会長)

一般の方に社会教育の意味がどのぐらい理解されているのか。市民館だよりも回覧されるけど読んでいるのだろうか。

(事務局：篠原係長)

4月に配属になり、社会教育とは何かということからスタートした。色々な研修も受けてきたが、社会教育と言ってもハードルが高いが、学校以外のすべての学べる機会が社会教育で、すごく大事だと感じている。生涯学習とも言っているが「学べる場」だと思ってほしいが、講座に参加してみないと分からない。アンケートでも2回、3回と受講し、おもしろいから違う講座を受けてみたいというところがあると感じる。1回のイベントでもいいから社会教育に触れてみる機会を得て、それぞれの人生が豊かになることではないかと感じている。

(米山委員)

教育というと難しいが、人と人の結びつきが大切だと思う。地域のイベントで一つのことを成し遂げる中で教わる、教えるなどができてくる。先月盆踊りをやったが、地元を大切に横のつながりを大事にしていくことが教育ではないか。市民館に出向いて何かをやるのが大切ではないか。会議室等の利用率もう少し上げられたらと思う。

(吉田部会長)

地域で活動の場を作ってあげるもの大切で、そこで情報を得て市民館に足を運ぶ人もいる。

(高梨副部会長)

社会教育は地域づくり、人づくりといわれ、そのきっかけが大事。生涯学習は学校教育、家庭教育、社会教育を包括する理念で、その生涯学習社会をより推進していくために社会教育事業がある。成人だ

けでなく幅広くターゲットを拡げて活動していけるものなので、広すぎてあいまいに見える。学校教育のように学習指導要領が決まっていなくてあいまいに感じられるが、そのあいまいさが魅力だと思う。市民館に行くと子どもでも大人でも人と関わって何かを知ったり、学んだりできて何か楽しい、また行ってみようかなと思う。そのサイクルを繰り返していくことが社会教育だと思う。「社会教育とは何か」を学習者が初めから知っている必要はない。学習の活動を重ねていく中で社会教育と何かを理解していくのかなと思う。運営していくほうは社会教育とは何かということは大切だが、学習する人にとっては振り返ってみたら、それが社会教育だった、道ができていたという感じのもの、あまり堅苦しく考えなくてもいい。人づくり、繋がりづくりというのは現代的課題で、色々な考え方の人がいるし、引きこもりや地域で孤立している人もいる中でそういう方にも間口が広がっているのが社会教育だと思う。多摩区の中でどのような現代的課題に取り組んでいくかは検討されることかと思うが、街をよく知るといえるものか、まちづくりには色々なやり方がある。

(三品委員)

社会教育は枠にとらわれない教育だと思うが、チラシが来ても見ない、興味がなければ見ない。参加させるのであれば興味だけでなく強制させる面が必要ではないか。参加した方がいいと勧められて参加するとか。また、算数の分からない小学生に徹底的に教えてることに対応できる制度を作ってほしい。国力、産業、学力低下等の問題も盛んに議論されていて政府も数理教育を徹底しようとしている。それに絡めてはどうか。川崎でも技術を表に出して取り組んでいる。算数に対して小学校で弱みを作り、中学校で嫌になり、高校では避けてしまう。少なくとも多摩区だけでも算数がわからなくならないようにクラスを作ってほしい。やり方はいろいろあるが、友達同士が教え合って、年齢が上の子が下の子に教えるとか、自由に話し合える仕組みにして、分からないところは徹底的になくしていく。またもっと高度なことをやりたいということがあれば教えてあげればいい。特別に塾とかに行かなくて遊びながらできない子と一緒にやるとか、そういう形で学び合っていければと思う。算数は面白いと思うクラスを作ればと思う。

(事務局：篠原係長)

市民館の社会教育事業に「寺子屋」事業は、コーディネーターを養成し、実際に寺子屋をやっている方々の情報交換を通じてサポートするもので、講座をやることでコーディネーターが寺子屋先生をよりブラッシュアップしていくことが社会教育だと思う。学校教育ではなく、学校教育を支える方、人づくりをするのが社会教育の領域だと思う。

(三品委員)

前回の話で料理教室をやってほしいというのがあったので、算数教室は集まって勉強ができるという観点で考えた。青少年教育事業か、PTA 家庭教育学級に相当し、健康教室の提案と同じと考えた。

(齊藤委員)

これまでも専門部会に参加しているが、先ほどの話は事業としてやりたいことの一つで、事業を立ち上げて市民自主学級とかでやられるということだと思う。専門部会で話し合うことはそれも含め、全体的に市民館のあり方とか、市民館事業をどのように周知していこうかというところではないかと思う。

(事務局：篠原係長)

具体的に講座でこういうことをやりたいというのは、随時募集をしている。今までの報告を見ると「あり方」、今後講座を作るに当たっての「考え方」などを委員に研究して頂いたと思う。講座をどうしたかというところは企画提案だけでなく、随時別途相談している。

(三品委員)

ここではこういう可能性があるという議論はしないということか。

(事務局：篠原係長)

こういう講座があった方がいいというのは議論はしてもいいですが、これまではそのためにどのようにアプローチしたらよいかを考えて頂いてきたと思う。

(事務局：柏原館長)

いくつかのキーワードがでていますが、自分にとって必要かもしれないと思う「きっかけ作り」や、学力だけでなく子どもたちの人間力や生活力、自分で必要なものを掴み取っていく力などをどのように育み、地域の中で見守るか、ということだと近くなるのではないか。学力そのものにスポットを当ててしまうと学校教育に焦点がいきまいてしまいストレートすぎる。子どもと市民館を考える場合に題材としてはあるかと思うが、個々の学力、算数を取り上げるかは別の次元で、社会教育では地域全体の力、つながる力ということになるのではないか

(米山委員)

市民館をいかに有効に市民に活用していただくか、ということではないのか。

(高梨副部長)

今の話からすると多摩区の社会教育ではこれまで子どもに対してどのようなことがされてきて、どのように評価されているのかを調査、研究し、その上で市民館でこういう事業をやったらどうかとか、こんな方向性で社会教育を展開していったらどうかと提言していく報告ができる。

市民館の企画提案ができる場というのがあまり伝わっていない。

(三品委員)

具体的なことが無ければ何の議論もできないかなと思う。抽象的でなく、こんなのがあったらいいなというのを議論できたらと思っている。

(事務局：篠原係長)

市民館に企画などの相談ができる事が知られていない、企画提案があることもよく知られていない、ということが何よりも課題かなと思う。市民自主企画事業も他の館、隣の麻生市民館は多くあるが、多摩区はここ数年少ない。2月の専門部会で審査をしていただくが、やりたいという声を拾う場があるのに無いと思われているのが問題で、活用して団体の活動を充実させていく機会を減らしている、人づくり、地域づくりを阻害していると思った。

(高梨副部長)

麻生区が多いなら調査して、多摩区はどのような地域なのか、市民館はどうしていくのかを考える。

(齊藤委員)

市民館だよりもこれだけ大きなスペースを取って、目に入らないわけがない。そもそも開いていないのでは手の打ちようがない。つながり作りについては、去年市民館から「こんな人はいないか」と頼ま

れて「たまたま子育てまつり」や「ジオラマづくり」で知り合いを紹介をした。地域で声を掛けると何人か手を上げてくれて協力してもらえた。つながりのつながりを作っていく人を育てていくのが大事。麻生区は地区が小さくて PTA とかのつながりが強く協力的で、人脈でつながっている。ここ数年、広報の議論をしているが、結局は人のつながりが大切になってくるというのが実感だ。つながりのある方から誘われると行こうかと思うが、広報だけでは難しい。

(米山委員)

たとえば市民館だよりは回覧ではなく町内会掲示板にしてはどうか。そのほうが目に付くかもしれない。

(小澤(章)委員)

9月にサークル連絡会で交流会を開いたが多くの参加は難しかったが、誘う時には「学び」というと難しいので人との繋がりによる楽しさ、嬉しさを伝えている。市民館の話をしていると年配の方からはコミュニティバスを作ったらとか、自然災害について知りたいとかの意見を頂いた。

(吉田部会長)

高齢者には市民館は敷居が高い。いこいの家なら65才以上なので市民館の事業をやってもらえれば、管理人を通じて声掛けもできる。市民館という名前自体が敷居が高いと思う。

(事務局：柏原館長)

委員の皆さんは地域とつながっているが、それが市民館とつながっていないと感じる。声を掛けないと繋がらないのが弱みなのか、こちらからできるアプローチはないのかなと思う。

地区ごとに具体的なことはあるのか。

(齊藤委員)

実際、自分の住んでいるところ以外の地域性との比較というのは難しいと思う。子ども会や PTA のつながりで寺子屋、多摩区では地域教育会議を、地域で特別な活動をやっているわけではない。地域の特色といわれてしまうと難しい。

(事務局：柏原館長)

シビックプライドというと多摩区全体の大きなところで考えられるのか。もう少し小さな単位で考えなければならないのかと思った。

(小園委員)

まずは地域の特色を洗い出すのですかね。

(事務局：柏原館長)

「つながり」の強さ、特徴を把握するのではないか。違いがあるのならターゲットとか、仕掛け方を地域ごとに考えなきゃいけないし、全地域いっぺんには難しいので、この地域だったらどこにアプローチしていくのかということになる。

(齊藤委員)

小学校の校長先生は川崎じゅうを廻っているので地域の特性を知っているのではないかと。校長は町内会とも子ども会ともつながりがあり、地域の方々ともつながりがある。いろいろな先生に地域の特性、カラーを聞いてみるのもいいのではないかと。子ども会も町会とつながっているところと全く繋がっていないところもある。

(米山委員)

6校の地域教育会議に参加している。各地区でタイアップしてイベントをやっている。

(高梨副部長)

地区社協と市民館の関係はどうか。

(事務局：柏原館長)

多摩区社協とは事業を一緒にやったりしている。

(吉田部長)

地区社協はどこも連携は取れていない。

(事務局：柏原館長)

資料4の5地区は概ね地区社協の区域割が地域ケアなどでも使われていることから提示したもので、市民館と地区社協との連携ということではなく、既存の地図を活用した。

(高梨副部長)

これを参考にしながら多摩区を細分化してそれぞれの特徴を調査して、多摩区全体をとらえなおしていくのも研究ではないか。

(事務局：柏原館長)

事業を展開する上でそういうことも考慮しなければならないのかと思い提示した。いこいの家なども地図に落としていくと見えてくるかと思う。今ある「つながり」が市民館とつながっていないということからその認知度を上げて、もっと利用してほしいと考えたときにどのようにアプローチしていくかを考えたときに、どのへんをターゲットにしていくかを視野に入れていかなければと思った。

(高梨副部長)

前期、前々期に市民館が出向いていった方がいいとのことだったが、取り組みとしてはどうか。

(事務局：柏原館長)

今現在は、庁舎の改修工事で必要に迫られて生田出張所とKFJ多摩スカイキッズに場所を借りて事業をやって現地に出向く足がかりになっている。市民館で来るのを待つのではないというのが始まりつつある。

(米山委員)

将来的に生田出張所を使っていく予定はあるのか。

(事務局：柏原館長)

生田出張所は普段から使える施設にはなっている。老人いこいの家やこども文化センターなどは協力関係の中でやっていけるところがあるかもしれない。

(小澤(章)委員)

市民館は来年の2月まで使えないが、近くのどこかの施設が使えるのか教えてもらえると助かる。

(事務局：柏原館長)

利用内容と施設のマッチングが必要になってくるので窓口で相談させていただいている。テーマについては事務局の方での準備が必要かと思う。

(事務局：篠原係長)

皆さんから意見を頂いたのもうちょっと整理をして分かりやすい資料を作って提示し、今期のテーマを決めていただきたいと思います。

(三品委員)

資料を作る際に地区社協などがどこにあるか等もう少し詳しい資料をお願いしたい。

(事務局：柏原館長)

検討に必要な情報は次回までに用意をしたい。

(吉田部会長)

今回も色々意見を頂いたので、事務局にまとめてもらい次回議論をすすめていきたいのでよろしく願います。

7 その他

第3回・・・12月16日（金）10時～

第4回・・・2月26日（日）13時～

8 閉 会 （高梨副部会長）